
東方召喚録

UNXYS

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方召喚録

【Nコード】

N0647V

【作者名】

UNXYS

【あらすじ】

聞いてらっしゃい見てらっしゃい。

今宵皆様に語るのは不思議な不思議な幻想噺。

一人の少女が過去今未来を何度も死につつ生き抜いていく、そんな愉快なお話さ。

語り手は私／ぼく／俺／あたし／ボク／オレ／僕、佐津間さん家の已空／已空。

幻想の世界で生きる、一人の気まぐれな召喚士の話、始まり始まり。

注・本作は、東方projectの二次創作です。 主人公強（おそらく最強ではない）、原作キャラが二次創作に影響、キャラ崩壊、原作ブレイク、チート、召喚術などが含まれる可能性があります。

それらが苦手な方は今すぐその場で『信仰してえ！』と叫んでからブラウザバックをしてください。

第巻話。

はじまりのごあいさつ。

It's a long time

始まってしまったこのシリーズ。

もう一つより不定期になるのは確定的に明らかなのでのんびりおねがいします。

第巻話。 はじまりのいあいさつ。

(It's a long time

———召喚術とは。

“^{サモニンク}召喚術は特殊な魔法のようなもの（※1）である。

元々は送還術^{パージング}と呼ばれる、異世界の者を元の世界に追いつ返すだけの技術であったが、これを逆利用する事で異世界から使役対象を呼び出し、その力を行使させる技術となった。

なお、召喚術は呼び出す対象との合意の上で行われる。

召喚の基本原理は、サモナイト石と呼ばれる特殊な鉱石にマナを注ぎ込んで異世界との通路を開く。

そして召喚対象の「真の名」を唱えて「誓約」によって呼び出す、という2つの段階に分かれる。

サモナイト石は5種類（黒・赤・紫・緑・無色）存在し、黒がロレイル（機界）、赤がシルターン（鬼妖界）、紫がサプレス（霊界）、緑がメイトルパ（幻獣界）、無色が名も無き世界（異界）の存在をそれぞれ召喚することができる（※2）。

サモナイト石は、世界の地下を流れるマグマに含まれるマナが長い時間をかけて結晶化したものである。

一度召喚に使われたサモナイト石には召喚された存在の真名または紋章のようなものが刻まれ、その存在をサモナイト石が破壊されるか召喚対象の死亡・消滅及び誓約の解除がなされない限り何度でも呼び出すことができる。

召喚術を用いる者を召喚師、使役対象を召喚獣と呼ぶ。異世界から呼び出されたものであれば、人間でも無生物でも召喚獣と呼ばれる。

”

とのこと。

私には半分ぐらいいしか理解できなかった（※3）。

※1 詳しくは不明。

※2 『異世界』という割には名も無き世界の召喚物は香霖堂に置いてある物に似ている気がする。

※3 そしてなぜかメモを取り終わった後に、未契約状態のサモナイト石を貰った。誓約を試せとも言うのか。わたしに召喚術は使えないというのに。

————稗田家代々歴史書求聞史紀、阿礼乙女九代目阿求、召喚術についての項目より一説————

第壱話。

「はじまりのごあいさつ。It's a long time ago...」

目を覚ましてまず最初に見えたのは、ところどころ壊れた天井だった。

体を起こして異臭のする部屋から出る。

外は明るい。

もう朝のようだ。

狼が一匹、走っているのが見える。

……………。

さてと。

一つ伸びをして頭をはっきりさせた。

記憶はちゃんと残っている。

自分の記憶が重なっていくのは少し気持ちが悪いが、もう慣れてきた。

……………自分が転生していると気が付いたのは、2度目に死んだときのことだった。

一度目は気のせいで終わらせたのも、今となってはいい思い出だ。

「さあて、と。今度は……………また男？ まったく、ややこしいっ
たらありゃしない」

そういえば前々回、なんで死んだかは覚えて————いた。
妖怪大戦争（笑）で闘って死んだんだ。

人間として、月に行けなかった人間の一人として、空を見上げ、剣を突き立てて力尽きた。

女の身ながらよく頑張ったと思う。

わざわざ身を挺してまで親友を守りきった姿は我ながら格好いいものだったんじゃないかと。

最後まで戦って、相討ちなら重畳じゃないかな？

能力も全開で使ったおかげで最後までだいぶ助かった。
まあ死んだけど。

で、今回は女の子をかばって死亡と。
それでもあの娘は罪には問われるだろう。

そこはもう、××の腕の見せ所ってことで。

頑張れ、動物好きの天才。

そういえば向こうには野犬なんていなかったなあ。

「あ、そうだ、そうだった。　ちよつと確認を————つと」

周りを見渡して誰もいないことを確認して能力が使えるかを………

「————って、みんな死んじやってるんだっけ」

山賊にでも襲われた後、山犬、または狼でも来たのだろう。
自分の周りには散乱した肉片やら白い何かがあったりするけど気にしない。

バラバラになった物に興味はないんだから。
ニンゲン

今さっき息の根を止めた狼を蹴飛ばして瞑想を始める。

「制約に従い、此処に汝を呼び出さん。　出でよ、
打ち砕け光将シャインセイバの
剣」

ドスドスドス、と目の前に突き刺さる白い剣たち。
……うん、確かに能力は問題なく使える。

それを送り返し、空を見上げて一つ溜息をつく。

「ふう、3度目の転生成功。さて、どう生きようかなあ……」

さあ、今回ものんびり行くとしますかねえ。

生きるために。

———ああ、そうそう。

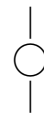
皆様方、始めまして。

私の名前は佐津間巳空^{さつま みそら}。

元大学生、専攻は相対性精神学。

よく解らない神様に飛ばされて、過去で召喚師やってます。
結構強い人間ですが、まだまだだと思っていますので。

これから、どうぞ、よしなに。



——この物語は、とある一人の人間が、ただ生きていくだけのお話。

——ちっぽけで、卑屈な人間が、何とか生きていこうとするお話。

——ただそれだけの、長い、長い物語。

——もしよろしければ、お付き合いくださいませ。

第巻話。

はじまりのごあいさつ。

It's a long time

さて、東方×サモンナイト（召喚術のみ）、はじめました。

更新は不定期どころか鈍亀を超えるでしょう（スカイタートル的な意味で）。

気になった方はどうぞ、このUNIXYSのちゅーにわーるとへいらっしやいませー。

感想、誤字、その他ありましたら感想かメッセージまで。

ここまで読んで下さり、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0647v/>

東方召喚録

2011年11月15日00時01分発行